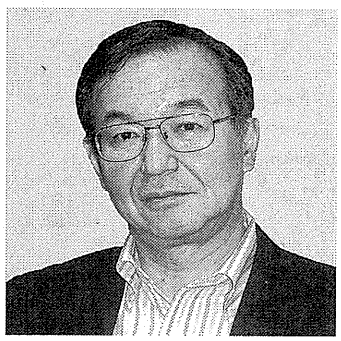
九州

ひと

ＪＦＥシビル理事
九州支店長に就任した

辰田 広一氏



「黒字体制」を維持拡大

神戸大学の大学院のゼミで「鉄骨構造」を学んだ技術屋。東京に約12年勤務し、残りの20年は、地方でのセールスエンジニア。「昼は営業し、夜は積算。技術屋になれない営業マン」―冗談めかして話すが、この分野を切り開いてきた自負がある。

本領が発揮されたのは、２００６年９月から３年半の北海道支店長時代。撤退して２年間のブランクがあった支店をゼロから立ち上げて、最終的には黒字にした。「人間万事塞翁が馬」の言葉の意味を、心に刻んだという。

九州勤務は初めてだが、３年前までは西部メタルビル営業部長（大阪）を務めており、九州の一部ユーザーをウォッチしてきた。東部メタルビル営業部長（東京）を経て、４月１日付けで就任した。

既に、１４０人と名刺交換した。「リーマン・ショックの直後は、苦戦されているお客様が多かったみたいだが、だいぶ明るさを取り戻されている」と、手応えを感じている。

九州支店は、システム建築主体の出先とあって、売上げの大半をメタルビルと耐震・制震ブレースが占める。システム建築は、ＪＦＥの工場で主要部材を作るとあって、鉄筋工や型枠大工が不足している今は時流に乗っている。

目指す支店は「３年連続で黒字体制なので、それを維持して拡大したい」と明快。仕事をする上で心掛けていることは「和み」。ただ「仲良しクラブではダメ」と釘を刺す。

自宅は兵庫県明石市で、家族は夫人と2男。中学から大学まで卓球部。現在の趣味は「下手なゴルフ」。血糖値が高めなので、毎日の散歩を欠かさない。自己評は「年を取ってきてから、短気になってきた」と微笑む。

（馬場 雅明）

略歴

辰田 広一氏（たつだ・こういち）１９８０年に川鉄建材工業に入社。技術研究所に約3年勤務した後、東京支店の設計部へ。その後は、セールスエンジニアとして、中部と東北以外を担当。技術総括部長、北海道支店長、西部メタルビル営業部長、東部メタルビル営業部長などを歴任。14年4月から現職。石川県生まれの59歳。